

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑩【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	学校行事

【題材】

- ・大槌町でのボランティア活動と復興状況の説明会の実施

【対象】

- ・第3学年 59名(男子27名 女子32名)

【実践の概要・詳細】

○実践の詳細

期 日：平成26年10月28日（火）

目 的：・東日本大震災の復興状況を見聞し、現状を把握することから今後の自分達の果たすべき役割について考える機会とする。

- ・ボランティア活動を通して、岩手の復興を支える気持ちを育てる。



実践①「いきいき農園での収穫作業の手伝い」

○いきいき農園について

いきいき農園では、地元の土地所有者から農作業ができる場所を提供してもらい、花を植えたり、収穫ができそうな植物を育てたりしている。この農園には、震災後に精神的な病気になってしまった人や仮設住宅暮らしでアルコール依存症になり、どうにか立ち直ろうとしている方々も作業に参加をしている。



今回は、3学年59名全員が参加し、今年植えた「さつまいも」や「里いも」の収穫作業の手伝いや花を植えた場所の草取り作業の手伝いを行った。人数のわりには作業内容が少ないような気もしたが、いい体験ができたのではないかと思う。



～農園担当の越田さんの話から～

いきいき農園の世話役である越田さんは、東日本大震災の津波により兄弟がいまだに行方不明になっているそうである。この農園作業で出合った方々との交流を通して気が紛れると言っていました。色々な環境や状況の中で作業に参加をしている方々には、早く元気になってもらいたい。

実践②「大槌町役場の方からの復興状況についての説明を聞く」

○大槌町に県から派遣されている職員の方が偶然にも紫波町出身というこでした。震災から現在までの復興状況について、高台から大槌町を見下ろせる場所で説明をしてくれ、とても参考になりました。



○生徒の感想（実践①）

ボランティア活動では、海から山へ向って登った場所で畑仕事を手伝いました。自分の分担は里芋堀りだったので重労働ではなかったが、真剣に仕事に取り組みました。少しの活動だったけど、現地の人の力になってほしいと思います。



○生徒の感想（実践②）

東日本大震災から時が経ち、関心が薄れつつある今、被災地の現状を伝え、支援を呼びかけることを続けることが大切だと思う。内陸部に住む僕達は、被災地の状況を伝え、支援を続けていくことが重要だと思います。



○生徒の感想（全体）

私達が社会人になっても、震災を風化させないことだと思います。被災者の体験談や教訓を忘れずに後生に残していくことが大切だと思います。できれば、現地への支援やボランティアを続けていくこともうんと重要なことだと思います。

○1日体験活動のまとめ

今回は、被災地を訪問してのボランティア活動や被災地の復興状況を説明して頂く機会を得て、生徒達も貴重な体験ができたと思います。

こうした活動を通して、これからも震災を忘れることなく、自分達には何ができるのかを考えさせていきたいと思っています。

○今回の1日体験活動の取り組みの流れ

- ・オリエンテーション
- ・震災時の状況把握（DVDの視聴）→ 感想
- ・大槌町を知る（プリント学習）
- ・1日体験活動の実施（当日）→ 感想
- ・個人・グループでのまとめ → 発表用掲示物
- ・1日体験発表会（グループ）→ 一斉参観日